

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	相模原市営南台団地1号棟	階数	地上8F
建設地	相模原市南区南台4丁目482番9号	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	165人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階計時間/年
竣工年	2016年3月 予定	評価の実施日	2014年3月20日
敷地面積	3,994 m ²	作成者	株式会社大建設
建築面積	793 m ²	確認日	2014年3月22日
延床面積	5,363 m ²	確認者	株式会社大建設



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・誰もが安心して生活できる街区の形成 ・歩行者用街路の整備と、それに連動する4つのコミュニティエリアの配置 ・高齢化社会に配慮した高齢者住宅及び支援施設の整備 ・周辺の住環境に配慮した良質な住環境を確保する配棟計画		・集会所はポルト屋根とし、地域活動支援センターには、曲面を用いた平面形及び壁面の仕上げに他と差異感のあるタイル素材を用い、福祉施設のかまえを形成し、機能を表すわかりやすい表現とした。
Q1 室内環境 ・内装仕上げ材は全て規制対象外F()としている。	Q2 サービス性能 ・住戸の半数近くがシルバーハウジング・身障者の住戸なので、建物全体に対してユニバーサルデザインに配慮した計画を行う。 ・障害者住宅は車いすでアクセスしやすいよう1階に配置。	Q3 室外環境 (敷地内) ・地域の中で街路を意識した施設(集会所や社会福祉施設)づくりやグリーンベルト、歩道の整備 ・住棟のセットバック部分を無くし commonspaceの芝生広場とした。
LR1 エネルギー ・近隣住宅地への日影の影響を少なくするため、住棟の位置を微調整し、ある部分は住棟の間口寸法を調整するなどして各住棟の採光を確保しながら最善の案を模索した。	LR2 資源・マテリアル ・各住棟は、6-8階の住棟とし、基調色としてグレージュみの白及び妻壁にアクセントカラーの濃いベージュを統一とする。また、外廊下の手摺壁にはコンクリート型枠の模様パターンを用いて変化を与え、マッシブな量感を和らげるデザインとした。 ・4つの住棟に与えるシンボルカラーは街並みや住宅街の環境との調和を意識して日本の伝統色から、やわらかみのある優しい色彩を選択した。	LR3 敷地外環境 ・前面道路の歩道に対して、歩行者通路幅が2mになる様に、歩道状空を整備し、併せて歩道に沿う様にグリーンベルトとなる緑地帯を設け植栽を行い、街区へ潤いを与える計画とする。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される